



ポーランド広報文化センター  
INSTYTUT POLSKI TOKIO

ポーランド広報文化センター  
駐日共和国ポーランド大使館  
東京都目黒区三田 2-13-5 153-0062 Japan  
Tel. +81 (03) 5794-7020 www.instyutpolski.org

令和元年 5 月 吉日

各位

ポーランド広報文化センター  
所長 マリア・ジュラフスカ

### 「アイヌ語の研究及び再活性化のためのコンピュータ技術の活用」のご案内

風薫る五月、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃の弊センターの活動にご理解・協力いただき、誠にありがとうございます。

この度、北見工業大学の研究所に所属しているミハウ・プタシンスキとカロール・ノヴァコフスキ（プロフィール別紙参照）は、アイヌ語の今までの研究の発表会を開催いたします。

アイヌ民族の言語や文化の最初の研究者の一人は、ロシア帝国に極東へ流刑されたポーランド人のブロニスワフ・ピウスツキです。彼は蠟管を使ってアイヌ語を録音したり、口承文芸の翻訳文を書いたりしました。

今日、アイヌ語は絶滅の危機に瀕しています。決定的かつ効果的な行動がない場合、数十年以内にアイヌ語が自然言語として完全絶滅します。一方、アイヌ語の研究には根本的な課題が残されています。口承のみで標準表記がなかったアイヌ語はどのように表記すれば良いのでしょうか。翻訳されたことのない単語の意味を理解することは可能でしょうか。アイヌ口承文芸の語り手の自然な声をコンピュータで再現することは可能でしょうか。それらの課題を効率的に解決し、アイヌ語を活性化させるためには、言語学的知識とともに人工知能及び自然言語処理という最新の技術を用いる必要があります。（発表者による紹介文より引用）

皆様におかれましては、ご多忙中のことと存じますが、是非、ご参加を検討いただければと存じます。

記

期日：令和元年 5 月 24 日（金）

会場：駐日ポーランド共和国大使館 多目的ホール

時間：開場 16:30、開会 17:00

以上

ご出欠のご返事を返信用紙に記入して頂き、5月17日（金）までにFAX（03-5794-7024）でお送りいただくか、メール（tokio@instytutpolski.org）にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。



**ミハウ・プタシンスキ (Michał Ptaszyński)** 1981 年ヴロツワフ生まれ。2006 年にポズナン市の Adam Mickiewicz 大学で日本学分野で修士号を取得（専門分野：言語学）。日本語の勉強中に初めてアイヌ語学コースに参加。2007 年、北海道大学で博士課程を開始、2010 年に博士号を取得。2010 年から 2012 年にかけて、北海学園大学ハイテク研究センターの日本政府の研究者として、アイヌ語のコンピュータ処理に関する最初の研究を開始。現在は、北見工業大学の Polytechnics 教授を務めている。研究分野は、言語学、人工知能、心理学などの科学の一般的な分野を組み合わせしており、自然言語処理、情報検索、ヒューマンマシンインタラクション、感情科学、感情コンピューティング（感情コンピューティング）などの科学の特定分野をカバー。感情分析、分析に影響を与える、または絵文字について学ぶ。百件以上の査読付き科学出版物の著者であり、そのうち三分の一以上が世界クラスの科学雑誌に掲載。最も重要な科学的貢献の 1 つは、アイヌ語のコンピュータ処理に関する研究。アイヌ語のコンピュータ処理とともに、サイバーインテリジェンス、機械学習、および自然言語処理を使用してサイバーフラグメンテーションを自動的に検出することを歴史的に最初の試みとして試み、その最も重要な研究トピックの 1 つ。

以下の学協会のメンバーでもある。

- 計算言語学協会 (ACL) (協会のメンバー、職業倫理委員会のメンバー)
- 電気電子学会 (IEEE) (協会のシニアメンバー)
- 人工知能進歩協会 (AAAI) (協会会員)
- 自然言語処理学会 (ANLP) (アソシエーション会員)
- 情報処理学会 (会員)
- 日本人工知能学会 (JSAI) (協会会員)

**カロール・ノヴァコフスキ (Karol Nowakowski)** 1987 年ポーランド生まれ。2012 年にポズナン市のアダム・ミツケヴィチ大学にて日本語学の修士号を取得。九州大学での留学期間中 (2010~2011 年)、南西諸島と北海道という日本本土以外の地域の文化に興味を持つようになる。その結果、トカラ列島という、ヤマト文化と琉球文化の間に位置する小さな列島に関する修士論文を発表。

2016 年から、絶滅の危機に瀕しているアイヌ語のコンピュータ処理に関する研究においてミハウ・プタシンスキと協力を開始。2017 年に、文部科学省から奨学金を受け、北見工業大学にて大学院博士後期課程に入学し、そこで現在アイヌ語の分析・処理のための技術の開発に取り組んでいる。上記の研究に関する 6 本の科学論文の著者または共著者。大量のアイヌ語テキストとその翻訳文および言語学的なアノテーションを含む、今後のアイヌ語研究のさらなる発展を支えると期待できる世界初の大規模アイヌ語電子コーパスを作成するプロジェクトを開始。2018 年 10 月に情報処理学会に開催された第 237 回自然言語処理研究発表会にて、上記プロジェクトに関する発表が優秀研究賞を受賞。